

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500092		
法人名	有限会社 ケアシステム		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県鹿沼市西鹿沼町1018-1		
自己評価作成日	令和3年5月13日	評価結果市町村受理日	令和3年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和3年6月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

牧場でヤギを飼育し、地域の皆様や近隣の施設の方がより親しみを持てる環境作りをし、交流を図っています。月曜日に毎週ミーティングを実施し、情報共有を徹底しています。認知症があってもその人らしく、毎日楽しく生活できるように、職員も笑顔をもっとにしています。キャリア段位制度を取り入れ、職場内外研修を計画的に実施し、職員のスキルアップに力を入れています。理学療法士の指導のもとリハビリを行い、ご利用者様も楽しみながら機能維持向上に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響でボランティアの方たちとの交流を図れない為、施設内で楽しんでいただけるような疑似お買い物やお花見、お茶会等のイベントを定期的に変更しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所の隣にある牧場では、ヤギを飼育している。近隣住民や保育園児はヤギとの触れ合いが行われている。事業所内の中庭で、バラや桜を鑑賞しながらお茶会が行われている。専門職(看護師、保健師、理学療法士等)を配置し多職種連携を図っている。
- ・3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会の会議が開催されている。自治会長や民生委員、協力薬局、市議会議員も参加され意見を貰っている。
- ・定期的に行われる全体会議やリーダー会議、月曜ミーティングは、職員の意見を重視し発言しやすい場となっている。
- ・事業所内の栄養士と給食委員は、利用者の要望を取り入れた、バランスの良い献立を作成し、職員が手作りの食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を毎朝再確認し、その日の支援に反映させている。又、陽だまり職員の心得を毎月の全体研修で全員で斉唱し、再認識している。	開所時より、介護理念や経営理念、職員の心得を事務所に掲げている。日々の申送り時や全体研修時に理念を唱和し、支援に取り組んでいる。職員は利用者や関係機関に対して理念の「優しさ」「根気よく」を意識した取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により地域と施設で共同してイベントを行うことができないため、牧場を通して、近隣の方や保育園、近隣施設の方とのふれあいをしている。	事業所の隣にある牧場では、ヤギを飼育している。近隣住民や保育園児はヤギとの触れ合いが行われている。感染症流行以前は、事業所内で夏祭りが行われ、利用者や家族、近隣住民、近隣施設、ボランティアと一緒に行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の困っている話し等を聞いた際は、対応方法をお伝えしたり、訪問したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面による開催をしていたので意見を取り入れることが難しかった。	運営推進会議では、家族や自治会長、民生委員、近隣施設、市議会議員、協力薬局、市担当職員、地域包括支援センター、事業所職員等10名以上が参加し、事業所からの報告や参加者と意見交換が行われている。昨年より、感染症対策のため各委員に書面を郵送し報告や意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会は書面での開催となっており、事業所の運営状況や活動状況を報告し確認して頂いている。分からないことや困難事例等があった場合は、その都度相談し対応している。	感染症対策や利用者への対応等、市へ相談は随時行われている。運営推進会議にも市の担当職員が参加され、事業所の状況報告が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学ぶ機会を全体研修やリーダー会議で持ち、職員に日々の振り返りや再認識をしてもらっている。又、身体的拘束適正化委員会を年に4回開催し、身体拘束ゼロの取り組みを実施している。	身体拘束適正化委員会が設置されていて3ヶ月に1回、会議が開催されている。自治会長や民生委員、協力薬局、市議会議員が参加され、意見を貰っている。年2回の研修を実施し、マニュアルの整備と見直し等が行われている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員適正化委員会を毎月開催し、介護にその職員が向いているか、ケアの仕方が適正かどうかを検討している。全体研修やリーダー会議で高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、日常的にも職員に説明していることであってはならないという認識をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修やリーダー会議で権利擁護について学ぶ機会を持ち、必要時にはあすてらすや後見人制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時、申込時、契約時、プラン変更時には本人とご家族との話し合いを十分に行い、安心して生活を送れるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の様子を職員はよく観察し、少し異変を感じた場合は居室や散歩に行ったりして本人の話を聴く時間を持っている。来訪時や電話連絡時にご家族とコミュニケーションをとり、意見や要望を言いやすい関係作りをしている。本人やご家族から意見などがあつた際は、月曜ミーティングや全体会議の場で報告を行い、情報共有し運営に反映させている。	感染症対策により家族とのコミュニケーションが少なくなっているが、電話で要望等を聞いたりして対応している。利用者からは日頃のコミュニケーションで聞き取りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やリーダー会議、月曜ミーティング、個人面談等で職員の悩みや意見、提案を聞き、運営に反映させたりしている。積極的に職員とコミュニケーションをとり良好な関係を築き、言いやすい環境作りをしている。	定期的に行われる全体会議やリーダー会議、月曜ミーティングは、職員の意見を重視し発言しやすい場となっている。年1回、管理者は職員の個別面談を実施し、意見や要望を聞いて業務改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度を取り入れ費用を会社が負担し、アセッサーの数を増やしている。職員のやりがいや向上心を持てるような環境整備に努めている。外部研修や資格取得などができる体制をとっており、本人の意欲があり希望があればパートから正社員へ移行しやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲があり本人の希望があれば、必要な研修に参加できるようになっている。会社側から能力に応じて研修参加や資格取得を勧めることもある。全体研修の年間計画を立て、毎月実施して学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や介護支援専門員は、同業者との勉強会や連絡会などに参加し情報交換を行っている。又、職員は施設外研修等で他施設の職員と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して利用開始できるよう、必要であれば何度も自宅などに伺い、関係を築いてから契約をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談を繰り返し、聞き取りを十分に行い、無理なく本人と関わっていけるような支援になるよう話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込後に判定会議を行い入所が妥当であるか検討してから契約をしている。本人とご家族との話し合いを十分に行い、必要な支援を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方に洗濯をたたんだり、食器を洗ったり拭いたり等のできることは職員と一緒にしていただいている。職員にも月曜ミーティングなどで生活リハビリの重要性を伝え、支援に反映させている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話連絡時には、本人の近況報告をし、情報を共有している。通院の同行などご家族にもご協力していただき、関係が途切れないような支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医など今まで通っていたところとの関係を保つようしている。新型コロナウイルス感染拡大予防のためご家族との面会もガラス越しでの面会となっており、友人等の面会は制限させていただいていた。	昨年より感染症対策の為に自粛しているが、以前は家族や友人等が面会に訪れた際には、自室で話ができるように配慮していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の間に職員が入り会話を一緒に行うことで関係作りをしている。席の配置などを検討し相性の合う方と話しができる環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で状況を確認したりしながらコミュニケーションを図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションを密にとり、会話の中から要望や意向等を把握し、日々の申し送りや月曜ミーティングで情報共有している。居室で話しを聴く時間を持つたりし、本人が安心してお話できる関係を築いている。	利用者との対話を重視し、本人の思いを大切に支援している。また、日常の支援の中で、言動から利用者の意向把握に努めている。また、利用者の表情からも読み取り支援をしている。	利用者の意向の聞き取りを今以上に工夫して行うことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とご家族と面談を重ねながら生活歴や家族関係等を把握するよう努めている。又、入所前に利用していたケアマネ等と情報共有し、スムーズにサービスを移行できる体制をとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月曜ミーティングを毎週行い、一人ひとりの状態を職員間で共有している。又、理学療法士によりその人の持っている力を活かすリハビリを指導してもらい取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族、職員や計画作成担当者を交え、サービス担当者会議を開催しケアプランに意見や要望等を反映させている。又、ケアプランを基に個別計画を立て、日々の支援を行っている。	介護計画は利用者や家族、職員で話し合い介護支援専門員が作成している。本人の状態の変化時には、介護計画を見直している。月2回、理学療法士に来てもらい、利用者にはリハビリが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人やご家族の言葉や変化があったときなど記録に残し、申し送りノートや日誌、口頭での申し送りで情報を共有し、必要時にはケアプランの見直しを随時行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況・状態の変化を受け止め、安心して生活を送ってもらえるよう、早急に職員間で話し合い、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で外出がままならなかった。敬老の日に合わせ地域との交流を楽しむ事や初詣に地域の神社に行くなどの支援をしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の往診もあるが、今までのかかりつけ医に継続して通院されている方もいる。受診の際には、看護師や職員が施設での様子をお伝えするなど適切な医療を受けられるよう努めている。	入居後も今までのかかりつけ医を継続することができる。また、かかりつけ医から協力医へ変更することもできる。常勤の看護師2名と保健師が配置され、医師と連携して支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の普段の様子や平常時バイタルを把握し、少しの異変にも気づけるよう努めている。異変を感じた際には、すぐに看護師に報告し指示を受け、ご家族への連絡や対応をしている。必要時には速やかに受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった際には施設での状態をお伝えし、入院中も看護師に状態を確認したりして病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合や終末期についての話し合いを行い、ご家族の意向を伺い、事業所でできることを説明している。	入居契約時に重度化した場合について本人や家族の意向を聞き取り、そのうえで事業所の対応の限界について説明している。また、事業所内では、看取りや重度化に向けた方針、緊急時の対応についての研修が行われている。	看取り加算の取得体制が整備されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染症の影響で消防のAEDの使用法や心肺蘇生の講習は受けられなかったが、緊急マニュアルに沿って動くよう職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、消防の指導を受けている。又、市の防災課の講習を受け、災害アプリに職員それぞれが登録し、災害時に活用できるようになっている。	年2回、昼夜想定避難訓練を消防署立会いのもとで実施している。事業所内にハザードマップを掲示したり、食品などの備蓄も用意して有事に備えている。職員全員が市の災害アプリを登録し、地域の状況をいつでも確認できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体研修やリーダー会議にて接遇マナーについて学ぶ機会を持ち、一人ひとりの人格を尊重するということを再認識し支援をしている。入居者それぞれの性格を把握し、その方に合った対応をするよう努めている。	利用者への言葉遣いに心掛けて、全職員に対して年1回、接遇や認知症の理解についての研修を実施している。居室には内鍵が付いており、一人ひとりのプライバシーが確保されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたいかを職員が本人に問いかける機会を作り、本人が自己決定できるよう配慮している。又、変化を見逃さないようによく本人を観察し、伝えたい思いがありそうな場合には居室でゆっくり話を聴き本人が思いを言葉にできるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に日常的に生活の場であることを伝えており、散歩に行きたい、ゆっくり中庭で過ごしたい、本を読んで過ごしたい等の本人の思いを尊重して過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床したら顔を洗い髪を整えていただいている。希望があればマニキュアを塗ったり紅を引いたりしておしゃれを楽しむこともある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みをお聞きし、メニューに取り入れるなどの工夫をしている。食後の食器洗浄を入居者の方と一緒にしたりしている。	事業所内の栄養士と給食委員は、利用者の要望を取り入れた、バランスの良い献立を作成し、職員が手作りの食事を提供している。また、皆でちらし寿司を作ったり、利用者希望の弁当を注文したりして、食の楽しみが得られるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄状況が一目でわかるようチェック表をつけ随時確認している。1日1500ccを目指しており、水分量が足りなければ、寒天ゼリーや食事等から水分が摂取できるよう努めている。又、食事量・水分量が著しく減少している場合には主治医に相談し対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯ブラシは、誘導や介助にて行っている。週1回の訪問歯科診療の際、口腔内の点検や指導等をしていただいている。必要時にはご家族と相談し治療を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況が一目でわかるようチェック表に記録し、本人の排泄パターンを把握するよう努めている。その方のタイミングで声掛けをし誘導することでトイレでの排泄を促している。随時パット類使用の見直しなどを行っている。	排泄チェック表を用いて一人ひとりの状態に応じた排泄介助が行われている。食事や運動も取入れ自然排便ができるように支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況のチェック表に記録することで排便状況も一目でわかるようになっている。必要時には、水分量や運動量を増やしたり牛乳を飲んでいただくいたり腹部を揉んだりして対応している。排便がない状態が続く場合には、随時主治医に相談し指示を仰ぎ対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中入浴することが多いが希望があればそれに沿うようにしている。入浴剤を使用したり、パラを浮かべたりして入浴を楽しんでいただいている。	入浴は週2日、午前中に行われている。個浴で自身のペースで入浴できる環境を提供している。季節に応じたパラ湯、菖蒲湯等を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて好きな時に休んでいただいております、本人の希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携している薬局と看護師が管理をしており、指示の基、定時薬・臨時薬を内服していただいている。服用した場合にはチェック表に一目で分かるよう記録をつけている。職員は一人ひとりの薬を把握している。変化があれば主治医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に食器洗いや洗濯を畳んだりしている。牧場や近隣へ散歩へ出かけたりして気分転換を図っている。庭いじりが好きだった方には、花がら摘みや草むしりを行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出が難しかったため、近隣への散歩や施設内で楽しめるイベントを行い、入居者の方のストレスが溜まらないよう配慮している。	感染症対策のため外出を自粛しているが、近所や牧場を散歩したり、施設内で疑似買物体験やお茶会等、利用者の要望に沿った支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの影響で野外レクなどが行えず、施設内で買い物ができるような行事を行い、ご自身で支払いまでしていただいた。又、日常の中で本人から買いたいものの希望があればご家族に相談の上、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に、入居者の方から希望があればご家族などにお電話をお繋ぎしている。年賀状を本人に書いてもらいご家族宛に出したりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内や玄関には季節の花を生けたり、壁に季節に応じた画用紙などで作ったものを飾ったりして、季節を感じていただけるようにしている。トイレや浴室にホールとの温度差がないよう配慮している。	玄関には季節の花が飾られている。中庭には桜やバラの木が植えられていて、季節を感じることができるようにしている。リビングの窓は大きく、光がたくさん差し込んで明るい造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では相性の合う方とお話ができるよう席の配置に配慮している。中庭には緑や花を多くし、自然を感じながら過ごしていただいている。玄関ホールにも花を生け、テーブルを用意し、落ち着いて過ごしていただけるような環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人が使っていた茶碗やコップ、思い出の品やアルバムなどお持ちしていただいている。居室は本人が過ごしやすいようご家族と相談しながら環境を整えている。	各居室は介護用ベッドとエアコン、クローゼットが用意されている。家で使用していたテレビや家具、ソファや写真等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印を入居者の方の目線の高さにも貼ってわかりやすくしている。夜間はトイレのドアを開け電気をつけたままにすることで、なお分かりやすく配慮している。		